

令和6年度 第1回 八尾市地域ケア連絡協議会 会議資料

資料1 令和5年度地域ケアケース会議報告

- ◇ 地域ケアケース会議合同定例会 … P.1
- ◇ 地域ケアケース会議発言要旨 … P.2 ～ 3
- ◇ 地域ケアケース会議随時会議 … P.4 ～ 11

資料2 令和6年度地域ケアケース会議について

- ◇ 地域ケアケース会議の体制 … P.12
- ◇ 地域ケア会議の方向性 … P.13
- ◇ 地域ケア会議 年間予定表 … P.14

資料3 令和5年度高齢者虐待について

- ◇ 養護者による虐待集計（概要） … P.15 ～ 17
- ◇ 虐待の発生に影響を与えたとされる要因 … P.18

資料4 令和5年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書 令和6年度八尾市認知症地域支援推進員設置事業計画書 令和5年度認知症初期集中支援事業実施報告書 令和6年度認知症初期集中支援事業計画書 チームオレンジ活動について

… P.19 ～ 25

資料5 令和5年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書 令和6年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施計画書について

… P.26 ～ 28

令和5年度 地域ケアケース会議合同定例会

第1回地域ケアケース会議合同定例会

開催日時： 令和5年5月18日(木) 14:00 ～ 16:00

開催場所： 八尾市文化会館プリズムホール 会議室1

- 内 容： ・令和4年度第2回地域ケア連絡協議会の報告及び
令和5年度地域ケアケース会議の方向性について
・合同学習会
- (1)令和4年度高齢者あんしんセンターの取り組み報告
テーマ「独居や身寄りのない方などの救急要請の課題について」
報告者 志紀中学校区高齢者あんしんセンター楽寿
大正中学校区高齢者あんしんセンターあおぞら
曙川南中学校区高齢者あんしんセンター緑風園
テーマ「人生会議について」
報告者 高安中学校区高齢者あんしんセンター寿光園
南高安中学校区高齢者あんしんセンター信貴の里
東中学校区高齢者あんしんセンター中谷
- (2)テーマ「オレンジパトロールについて」
報告者 八尾市認知症地域支援推進員
・各圏域にて意見交換会

対 象 者： 八尾市地域ケアケース会議委員

参加人数： 93名

第2回地域ケアケース会議合同定例会

開催日時： 令和6年2月29日(木) 14:00 ～ 16:00

開催場所： 八尾市文化会館プリズムホール 5階レセプションホール

- 内 容： ・令和5年度第1回地域ケア連絡協議会の報告
・合同学習会
- (1)テーマ「コロナ禍からの孤立化対策～災害対策を通して考える
孤立化の防止～」
講 師 合同会社 Feels ふれあい館ケアプランセンターふいーる
主任介護支援専門員・看護師・防災士 神崎 トモ子 氏
- (2)テーマ「あいさつから始まるつながり～認知症になっても地域と共に生きる～」
報告者 八尾市認知症地域支援推進員

対 象 者： 八尾市地域ケアケース会議委員

参加人数： 77名

令和5年度 地域ケアケース会議 発言要旨

ブロック	北部(第1圏域)	西部(第2圏域)	南部(第3圏域)
事務局	萱振苑・スローライフ北・スローライフ八尾	りゅうげ・ホーム太子堂・久宝寺愛の郷	楽寿・あおぞら・緑風園
テーマ (事例検証)	孤立化対策を深めるー災害時に取残さないためにー	コロナ禍からのリスタート	地域の高齢者が集まる場所を知りたい
課題	・コロナ禍で閉じこもりや孤立が増加。防災、危機管理体制が重要な地域課題であり、孤立した人を災害時に取残さない為にはどうしていくのか。 ・民生委員が災害時避難行動要支援者支援の聞き取りで訪問しても、なかなか会うことが出来ない。また聞き取りの内容から、災害に対しての危機感が低い現状がある。 ・近隣の希薄化で住民同士、そこに誰が住んでいるかも分からない家があり、地域でも把握していない家がある。災害を見据えた実態把握が必要。 ・自治会や地域の行事等に参加しない人は、それ以外の活動にも参加しないので、社会とつなげるのは難しい。 ・孤立した人を見つけるのも一つだが、これから孤立しそうな人へも早めに何かアプローチ出来れば良いのではないか。	・新型コロナウイルスの流行により、感染拡大防止の観点から各機関ともこれまでの活動を自粛するなどしてきた。しかし感染拡大が終息しつつあること、正しい感染対策が定着化していること、5/8 から5類へと移行したこともあり、今年度だからこそ取り組めることを考える必要がある。 ・少しずつ人と関われる方法、集まりの場を段階的にどのように増やしていくか、独居高齢者への関わり方など、地域の特性に合わせた取り組みを考える必要がある。 ・今後、新型コロナウイルスに限らない別種のウイルス等の感染拡大によってロックダウンが行われた場合を想定し、各機関それぞれ独自で行える支援、また機関同士が連携し合って行える支援を確認・共有しておく。	・地域に集いの場が少ない。情報が分かりにくい。 ・高齢者のスマホ所有率は上昇しているが、電話のみ利用されインターネットを活用できない人も多い。紙媒体での情報が必要。 ・地域ケア会議の成果物の活用について、介護保険関係案内書類に同封するなど活用方法について検討するが、一圏域の課題に対する成果物であり、全市的な活用は出来ない。 ・コロナが完全収束出来ない状況で多くの人が集まることへの不安等から集まる場の再開が難しい、コロナ前のような積極的周知がしにくい。 ・民間企業のカフェブースを活用している集まりもあるが、公的機関としてどのように周知するか悩ましく感じることもある。 ・地域資源マップの名称では高齢者に何か分からない(社会福祉協議会は、支援者向けの情報として整備されていることが分かった)。
まとめ	・孤立化は直ぐに解消できるものではなく継続して取り組まなければいけない地域課題である。第一圏域では3年間、孤立化対策がテーマとなった。孤立化自体に問題があるのではないが災害時に取残さない為には、どのような事が出来るのか話し合った。 ・行政でしか出来ない事もあるが、災害に備えて個人で出来る備蓄や住民の危機管理意識を高めていく事が重要である。 ・日頃から近所同士の声かけ、コミュニケーションが大切で、災害時には住民同士の助け合いが必要。 ・地域によっては安否確認の訓練「無事旗の掲揚」の取り組みをおこなっている。自治会に入らない人も増えているが、その取り組みを積み重ねていく事が大切である。 ・他人との交流が嫌いな人もいるが、人とのつながりがある事で良い事もあるという情報発信や参加できる場所の情報提供等おこなっていく。 ・障害福祉課より「ヘルプマーク」について説明があり、「ヘルプマーク」を付けておられる人は、何らかの援助や配慮が必要である事が分かった。 ・遺品整理の現場から孤立化で発見が遅れると人生の最期に悲惨な結末を迎え、周りにも迷惑がかかる事を共有した。	・これまで各機関で行っていた活動内容、またコロナ禍で中止となった理由。また再開が出来た活動内容やどのようにして再開が出来たのかその工夫を共有する。 ・再開出来た活動内容の工夫や背景をさらに深く知ること、再び新型コロナウイルスだけでなくその他の感染症拡大を理由に再び活動休止状況となった場合の新たな試みや工夫を考える。 ・高齢者施設における新型コロナウイルス感染拡大時のBCP(事業継続計画)の動画を視聴し、各委員が一市民として危機管理を高めるために何が出来るかを考える。 ・“集合住宅で感染症が集団感染している”という想定事例を用いて意見交換会を実施。その集合住宅には「高齢夫婦世帯」「高齢の親と障がいの子の同居世帯」「母子世帯」「高齢者単身世帯」が住み、それぞれに感染状況を設定する。それぞれの世帯で想定される困りごとについて話し合い、そこで出た意見に対して各機関それぞれ独自で行える支援、また機関同士が連携し合って行える支援を確認・共有する。	高齢者が集まる場について、支援者が知らない情報も多いと考え、社会福祉協議会、認知症地域支援推進員から情報提供をしていただいた。社会福祉協議会で整備された地域資源マップの名称が、高齢者に分かりにくいとの指摘があったが、支援者向けの情報として整備されていることが分かった。 コロナが完全収束しておらず、再開していない集まりも多数あり。まだ多くの人が集まることへの不安もあり周知をどの程度するかも難しい、民間企業のカフェブースを活用している集まりについて公的機関としてどのように周知するか悩ましい、共生社会の視点から高齢者に限定しない情報を集めるべきか、高齢者のスマホ保有者は増えているがインターネットは使用出来ない方も多い等意見があった。 今回は、紙媒体での情報が必要との意見から、小学校区毎に地域の住民組織や高齢者あんしんセンター等公的団体が主催する高齢者の集まりを中心に情報収集し、紙1枚にコンパクトにまとめた。 必要な人に情報を伝える為に、介護保険案内郵送時に同封する等関連の市担当部署でどのような事が出来るのか検討したが、一圏域での成果物を全市で配布するのは難しいとの見解であった・完成したマップは、委員の方に配布し、各機関で個々に活用していただくこととした。
市レベルの課題	○全ての世代に対する孤立を防止するための対策の検討	○活動休止以外の代替案の検討 ○スマホ、ICT 活用の技術と知識の向上	○わかりやすい地域資源マップの作成・周知

ブロック	中部(第4圏域)	東部(第5圏域)
事務局	長生園・サポートやお・成法苑	寿光園・信貴の里・中谷
テーマ (事例検証)	特殊詐欺について	人生会議の啓発について
課題	・地域の力、近所付き合いが減っており、さらに個人情報に壁で気軽に相談ができない。 ・一人暮らしだと情報が入りにくい。 ・自分は大丈夫、騙されないとの思い込みがあるのではないか。 ・高齢者特有の価値観がある。銀行や警察などの公的機関からの電話は信用できると思いやすい。 ・人付き合い、近所付き合いが少なく、地域のつながりが希薄になっているのでお互いに見守りができない、地域住民同士で情報共有ができない。 ・見守りの仕組みがない。支援者も見守りにもっと積極的に入っていければ異変に早く気付くことができるのではないか。 ・高齢者の色々な問題や課題について、関係機関がそれぞれ単独で課題にかかわっていくのではなく、解決策の検討や情報を共有してチームとして対応していく必要がある。	昨年度も同テーマを取り扱い、事務局にて啓発チラシを作成して地域住民や関係機関に出向いての配布等を行ったが、 ・高齢者に対して人生会議を切り出すきっかけを見つけにくい。 ・親子でも財産について子から切り出すのに遠慮してしまう。 ・啓発後、実際に人生会議を行ったか尋ねたが、行った人はいなかった。必要性を感じてもタイミングがないとの声が多かった。 ・人生会議に関するツールは各自治体から出されているが認知度は低いと思われる。実際に記入して、書きづらいことが分かった。年齢層により項目も変わるのではないか、とも思う。 ・人生の最期を迎えるということはまだまだ想像しにくい。 ・高齢者だけでなく若年層への啓発こそ必要ではないか。 ・まだまだ認知度が低い。日常生活の多くの場面で目に留まるように資料掲示などを積極的に行う必要がある。 などの意見が挙がっていた。
まとめ	令和4年度に地域ケアケース会議で取り上げてほしいテーマについて委員にアンケートを行ったところ、特殊詐欺が増えているので詳しく知りたいとの意見があり、全国的にも特殊詐欺が急激に増えており身近な問題になっていることから、今年度は特殊詐欺についてテーマに会議を進めていくこととした。特殊詐欺だけでなく消費者被害についても議題に上げて会議を行ったが、どちらも若い世代ではなく高齢者が被害に遭いやすい傾向にある。理由としては、身近に相談できる人がいない、他者とのつながりが薄く誰かに話せない環境や、加齢からくる判断力の低下といった特性も影響している。特殊詐欺・消費者被害はどちらも完全に防ぐことは難しいかもしれないが、地域での見守りや気付きがあることで被害を未然に防ぐことができたり、被害に遭っても解決につながることができたり、他の人が被害に遭うことを防ぐことにもつながると思われる。高齢者自身が気を付けるための啓発はもちろん大事だが、高齢者にかかわる関係機関も地域の見守りネットワークの一員である意識を持ち、異変に気付く目を持つことが大切である。引き続き、地域ケアケース会議を通じて関係機関同士の顔の見える関係づくり、情報共有を行い、地域を支えるネットワークの構築・強化を進めていく。	厚生労働省の啓発動画等を全員で視聴するなど、人生会議の啓発を進める意識を改めて共有。 地域住民にもその意識を持ってもらうための方法について議論を重ね、八尾市第5圏域独自の人生会議記録シートのサンプルを作成して実際に記入してもらい、その後に出た意見をもとに工夫を重ねてシートを完成させた。 関係機関への啓発資材掲示依頼や市ホームページ活用等も提言するなど、より一層の認知度向上を図り、誰もが「もしものとき」に直面しても自身が望む形で過ごし、自分らしく最期を迎えられることを目指す。
市レベルの課題	○見守り支援体制の強化の検討 ○特殊詐欺被害防止に向けた啓発の検討	○人生会議について、様々な媒体を活用した周知方法の検討 ○人生会議について各世代に向けた啓発の検討

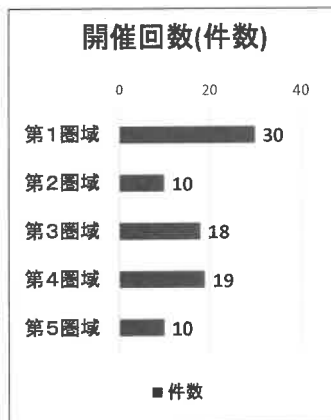
令和5年度地域ケアケース会議随時会議

R6年3月末現在

1. 随時会議の開催状況・内訳

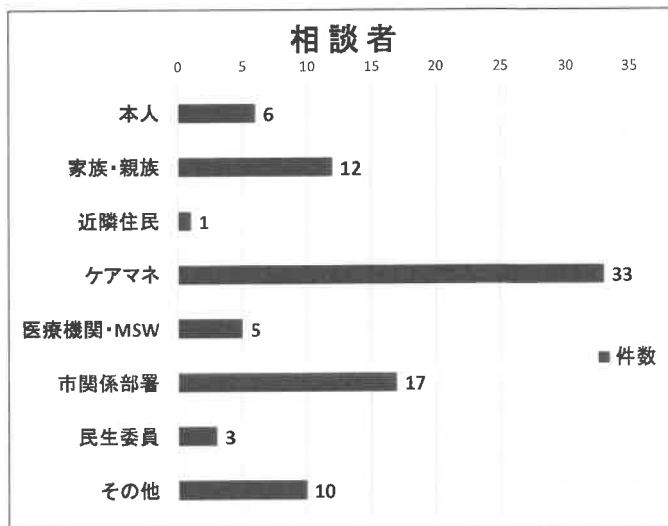
【開催回数】

	件数	延べ回数
第1圏域	30	44
第2圏域	10	18
第3圏域	18	20
第4圏域	19	31
第5圏域	10	11
合計	87	124



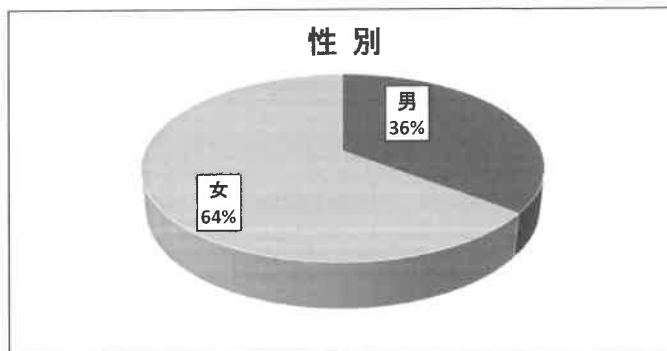
【相談者】

相談者	件数
本人	6
家族・親族	12
近隣住民	1
ケアマネ	33
医療機関・MSW	5
市関係部署	17
民生委員	3
その他	10
計	87



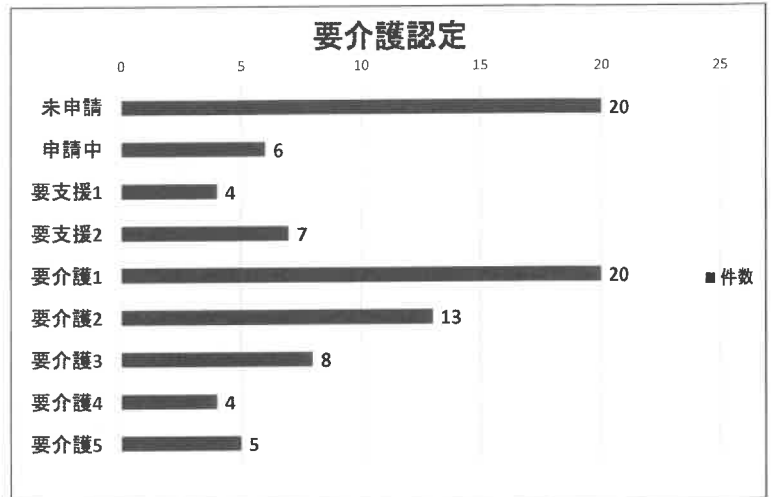
【性別】

性別	件数
男	31
女	56
計	87



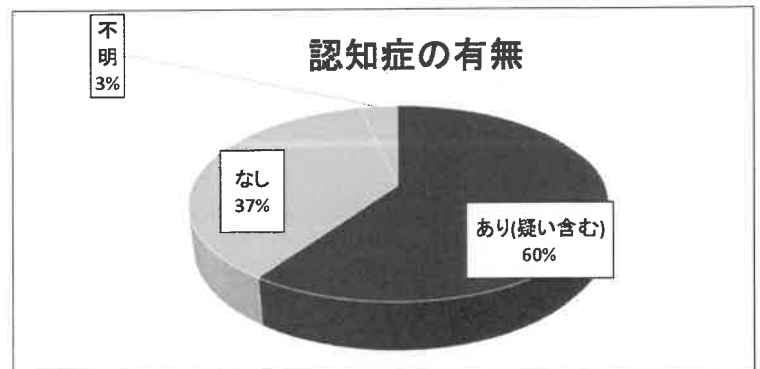
【要介護認定】

介護認定	件数
未申請	20
申請中	6
要支援1	4
要支援2	7
要介護1	20
要介護2	13
要介護3	8
要介護4	4
要介護5	5
計	87



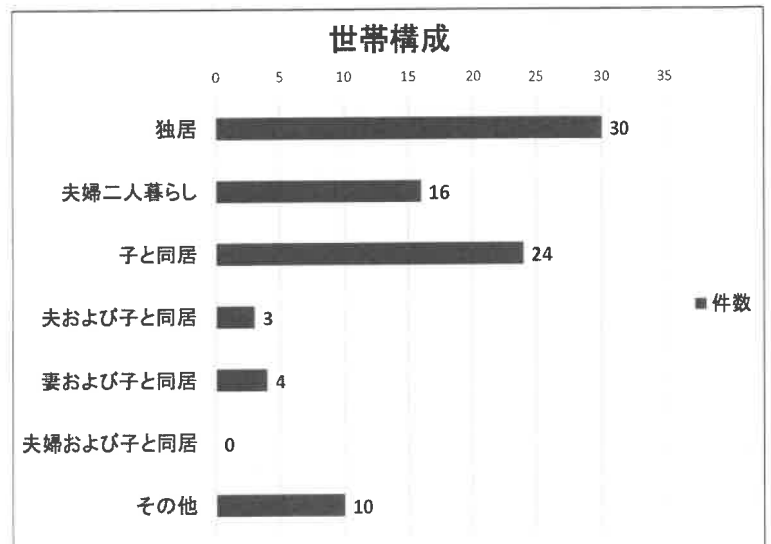
【認知症の有無】

認知症	件数
あり(疑い含む)	52
なし	32
不明	3
計	87



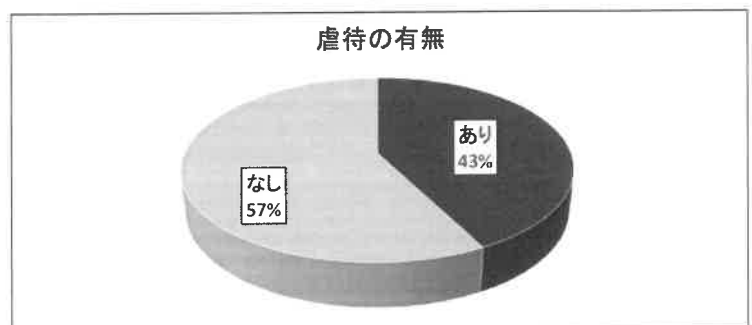
【世帯構成】

構成	件数
独居	30
夫婦二人暮らし	16
子と同居	24
夫および子と同居	3
妻および子と同居	4
夫婦および子と同居	0
その他	10
計	87



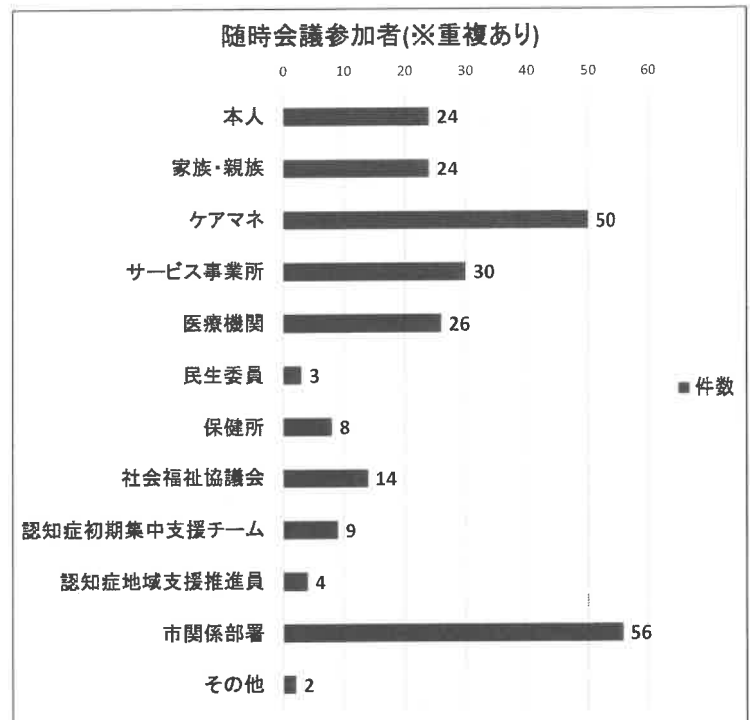
【虐待の有無】

虐待通報	件数
あり	37
なし	50
計	87



【随時会議参加者 ※重複あり】

参加者	件数
本人	24
家族・親族	24
ケアマネ	50
サービス事業所	30
医療機関	26
民生委員	3
保健所	8
社会福祉協議会	14
認知症初期集中支援チーム	9
認知症地域支援推進員	4
市関係部署	56
障がい福祉課	12
生活福祉課	24
高齢介護課	9
地域共生推進課	10
出張所等	1
その他	2
計(延べ件数)	250



2. 随時会議の経年推移

【件数】

	R3年度	R4年度	R5年度
随時会議	72	76	87
自立支援型	14	12	9
生活援助	2	5	1

【回数】

	R3年度	R4年度	R5年度
随時会議	105	94	124
自立支援型	2	4	4
生活援助	1	3	1

令和5年度 地域ケアケース会議(地域の実態把握)

地域の実態把握のために、事務局である高齢者あんしんセンターが地域の関係機関などに積極的に出向き、地域の高齢者に関する実態や社会資源の情報収集を行い、地域ケアケース会議に、その意見をあげていくように努めている。

内容

- ① 地域の現状の把握 ② 社会資源情報の集約及び提供

現状

- ① 地域ケアケース随時会議(地域の実態把握)

【会議を行った団体数】

テーマ 圏域	認知症	見守り	介護予防	地域連携	防災	その他 (※)
1 圏域	21	14	14	16	2	16
2 圏域	8	16	69	37	3	1
3 圏域	11	23	20	16	1	3
4 圏域	39	13	29	22	5	19
5 圏域	18	21	28	21	1	2

※その他内訳

世代間交流、防犯、地域環境、特殊詐欺、地域の情報収集等

※団体の詳細については、別紙参照

- ② 合同専門職会議

高齢者あんしんセンターでは、職種にこだわることなく、それぞれの専門性を活かした視点から「課題の共有」、「職種間の意思疎通」、「チームアプローチの実践」を目的に各テーマを設定し、合同専門職会議を開催している。

「地域支援ネットワークづくり会議」では、地域の様々な課題に対し地域や各関係機関と連携を図りながら、その解決を目指す取り組みを行っている。

「介護予防推進会議」では、自立支援に向けて高齢者・ケアマネジャー等の意識を高める取り組みを行っている。

「ケアマネジャー連携会議」では、ケアマネジャーとのより深い連携を目指した取り組みを行っている。

連携した機関	検討内容(※一部抜粋)
八尾市内における総合病院	※令和6年2月28日(水) 医療・福祉の意見交換会の開催。 多職種協働による切れ目のない医療・介護の提供体制を充実させる取り組みを目指す為、八尾市内の総合病院と 15 ヶ所の高齢者あんしんセンターにて意見交換会を開催した。意見交換会では「お互いどこに・どう連絡したらよいのか」「普段疑問に思う事」をテーマに医療側と福祉側が多様な意見を交える事で連携における情報共有の必要性を再確認した。また顔の見える関係性の構築を通して、医療・福

	社連携の強化を図った。
居宅介護支援事業所	※令和5年11月15日(水)研修会実施。 ケアマネジャーの「自立支援」の意識を高め、学びを深められるよう、ケアマネジャーを対象とした介護予防ケアマネジメント研修の企画・オンライン開催を実施した。研修会では「これは使える！目標設定」をテーマに、中村 昌司氏(公益社団法人大阪府理学療法士会)による講義から自立支援に向けたケアプラン作成の目標設定において、アセスメントや工程分析を通じて利用者の引き出し方を再確認することで利用者と介護支援専門員が自立支援についてさらなる共有を進めることが出来た。
居宅介護支援事業所	※令和5年度6回のケアマネ連携会議を実施。 地域の様々な課題に対し、ケアマネジャーと連携を図りながら、課題の解決を目指すため、居宅介護支援事業者部会と連携し、各圏域に分かれての事例検討会を企画した。

③ 高齢者虐待ケース全体評価会議(レビュー会議)

高齢者虐待情報を一元的に管理し、地域的な傾向の把握、ケースに共通する課題や地域課題の抽出、虐待防止に向けた地域づくりや体制を整えることを目指し、「レビュー会議」を開催している。

回数	レビュー会議を通して抽出された課題等
集合開催 20回 (各圏域にて 4回開催)	・ 養護者の精神疾患に起因するケース、養護者となりえること自体が難しいケースが増えている。 ・ 養護者が本人の為と思ってしていることが、虐待に繋がっていることがあり、養護者支援もより必要である。 ・ 家族間が疎遠になっており、支援を受けられないケースが増えている。 ・ 家族間、夫婦間での行為は虐待と捉えるのか判断が難しいケースがある。 ・ 虐待レベル、判断基準が難しい。 ・ 高齢者が亡くなった後に、残された家族(虐待者含む)への支援についての引継ぎ、早期の支援体制づくりが必要ではないか。 ・ 措置対応など、市に早急な判断を求められるケースも増えており、通報時点で市と委託包括が同行することが望ましいと考えられるが、現状の人員体制では実現が難しい。 ・ 長年の家族関係に起因する虐待ケースに対し、支援機関が介入することが難しいケースが多い。 ・ 介護者に対する虐待の説明は、今後の本人・支援者との関係にも影響してくる為、デリケートな問題で難しい。

まとめ

高齢者あんしんセンターが地域に出向き、関係機関等と意見交換を行うことで、地域の課題の把握に努めている。地域での会議内容で多いものは「介護予防」「地域連携」「認知症」といったテーマが多く、地域の関心の高さがみられた。また、高齢者虐待の傾向からは虐待発生の背景には、養護者の精神疾患や、養護者が65歳未満の際の関係機関との連携の難しさ等、複合的な多くの問題を抱えるケースが多くみられる。

このような課題から高齢者の支援にあたっては、高齢者あんしんセンターと関係機関との連携体制作りが必要である。保健・福祉・医療・及び地域との円滑な調整を図りながら、認知症支援にかかる関係機関との連携等を通じ、地域ケアケース会議を多職種連携の場としてより充実させ、高齢者を取りまく関係機関と連動した取り組みを検討していく。

* 会議を行った団体・開催回数

テーマ：認知症	萱	ス北	ス八	り	太	愛	楽	あ	緑	長	サ	成	寿	信	中
校区まちづくり協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地区福祉委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	0	0	0	0	8	1	1	0	0	3	0	3
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自主活動グループ	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症カフェ	6	0	6	2	0	0	0	0	0	6	0	6	0	10	0
その他	3	5	1	0	2	0	0	0	2	4	0	21	0	0	0

合計 97

テーマ：見守り	萱	ス北	ス八	り	太	愛	楽	あ	緑	長	サ	成	寿	信	中
校区まちづくり協議会	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5
地区福祉委員会	4	0	0	0	1	10	0	7	5	4	0	0	0	1	0
民生委員・児童委員協議会	8	0	0	0	0	1	0	8	2	2	1	0	3	10	0
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	0
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自主活動グループ	0	0	0	0	0	4	0	0	1	1	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0

合計 108

テーマ：介護予防	萱	ス北	ス八	り	太	愛	楽	あ	緑	長	サ	成	寿	信	中
校区まちづくり協議会	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	16	0	0	3
地区福祉委員会	0	0	1	3	12	17	0	7	0	2	4	0	0	0	3
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	3	0	0
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
高齢クラブ	8	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	6
自主活動グループ	0	0	0	0	24	11	0	4	1	3	0	0	3	3	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0

合計 160

テーマ：地域連携	萱	ス北	ス八	り	太	愛	楽	あ	緑	長	サ	成	寿	信	中
校区まちづくり協議会	0	0	3	0	1	2	0	0	0	6	0	0	0	0	1
地区福祉委員会	1	4	2	3	0	17	0	1	0	4	0	0	0	1	0
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	0	1	0	1	7	0	3	0	0	3	10	2
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
自主活動グループ	0	0	0	0	0	11	0	4	0	3	0	0	0	0	0
その他	2	4	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0

合計 108

テーマ：防災	萱	ス北	ス八	り	太	愛	楽	あ	緑	長	サ	成	寿	信	中
校区まちづくり協議会	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	1
地区福祉委員会	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自主活動グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

合計 12

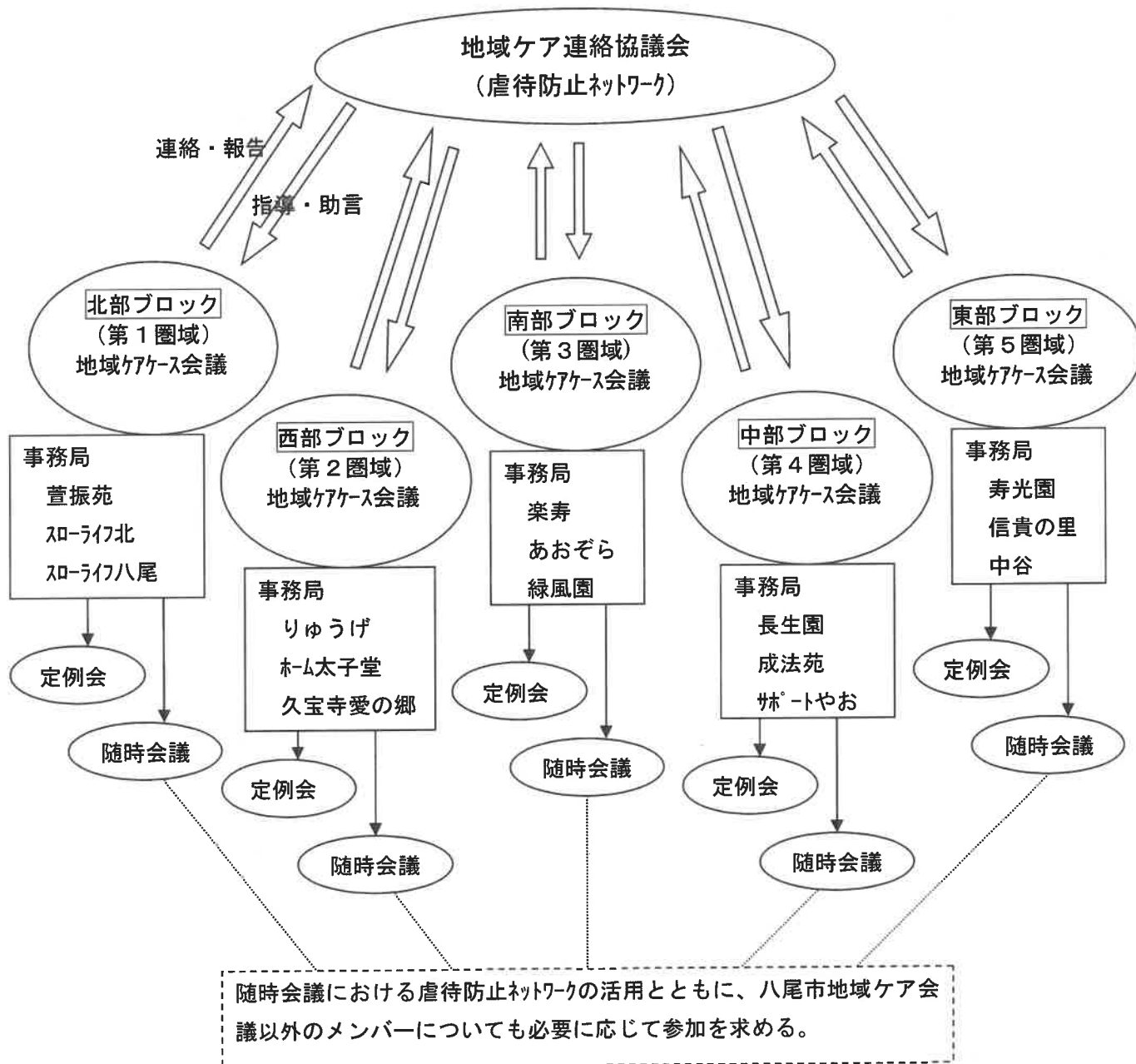
テーマ：その他 (地域の情報収集、世代間交流、居場所づくり、特殊詐欺、安全対策)	萱	ス北	ス八	り	太	愛	楽	あ	緑	長	サ	成	寿	信	中
校区まちづくり協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0
地区福祉委員会	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自主活動グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	14	1	0	0	0	0	0	0	3	10	0	0	1	0	0

合計 40

令和6年度八尾市地域ケア会議体制

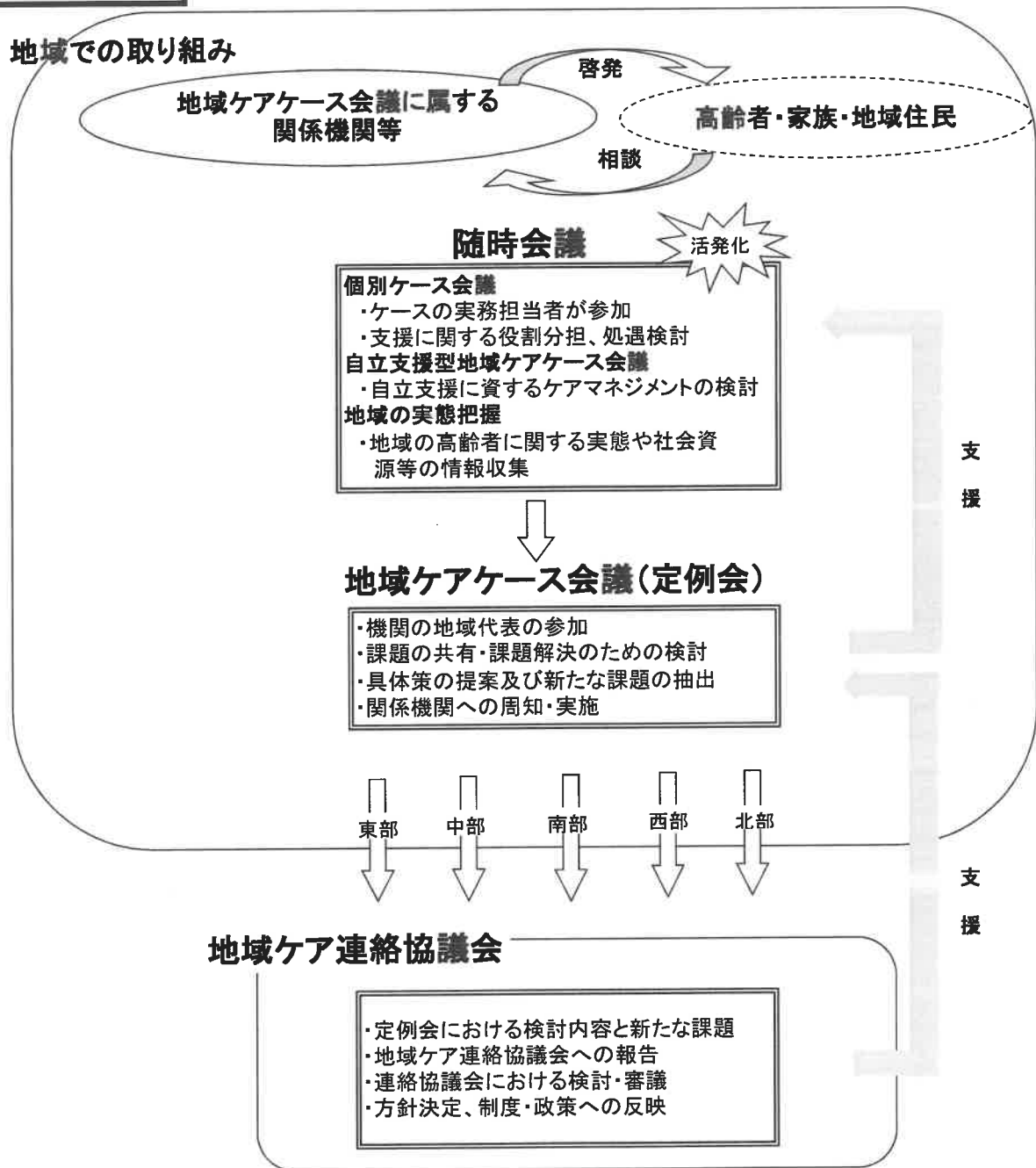
八尾市地域ケア会議

医師会・歯科医師会・薬剤師会・弁護士会・警察署・保健所・社会福祉協議会（地区福祉委員会）・民生委員児童委員協議会・訪問看護ステーション連絡会・居宅介護支援事業者部会・認知症疾患医療センター・消防署・地域包括支援センター連絡会・八尾市・その他必要な機関

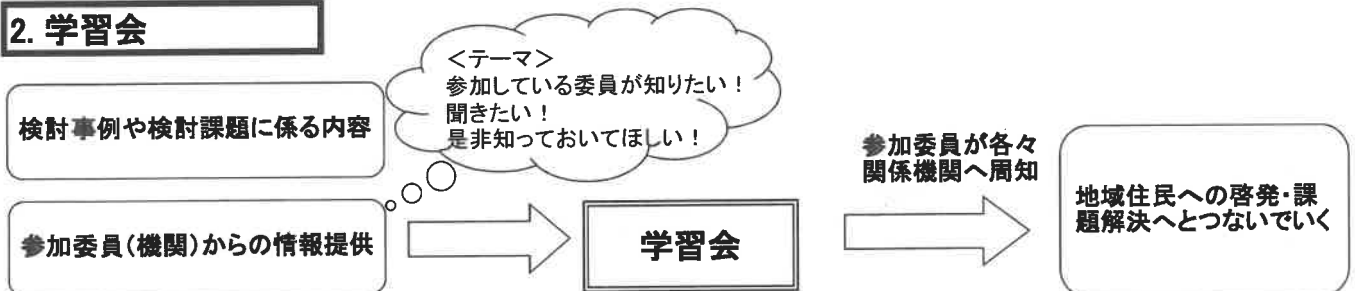


令和6年度 地域ケアケース会議の方向性

1. 地域の課題解決



2. 学習会



令和6年度 地域ケア会議 年間予定表

会議名	地域ケア 連絡協議会	地域ケアケース会議 定例会					地域ケアケース会議 随時会
日程	年2回	各ブロック 年6回（隔月 第4木曜日）					随時
事務局	八尾市健康福祉部 高齢介護課	北部	西部	南部	中部	東部	各ブロック事務局
		(第1圏域)	(第2圏域)	(第3圏域)	(第4圏域)	(第5圏域)	
		萱振苑 スローライフ 北 スローライフ 八尾	りゅうげ ホーム太子堂 久宝寺愛の郷	楽寿 あおぞら 緑風園	長生園 成法苑 サポートやお	寿光園 信貴の里 中谷	
令和6年4月	第1回予定	令和6年5月合同定例会開催予定					随 時
令和6年5月							
令和6年6月		27				27	
令和6年7月			25	25	25		
令和6年8月		22				22	
令和6年9月			26	26	26		
令和6年10月		24				24	
令和6年11月			28	28	28		
令和6年12月		26				26	
令和7年1月			23	23	23		
令和7年2月	第2回予定	令和7年2・3月合同定例会開催予定					
令和7年3月							

令和5年度 高齢者虐待について

R6年3月末現在

1. 養護者による虐待通報件数・内訳(在宅)

①通報(届出)件数・通報(届出)者

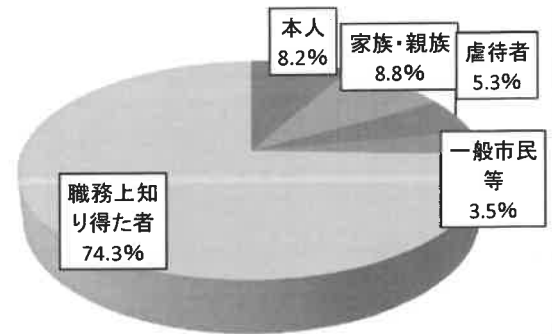
【通報(届出)件数】

	件数
通報(届出)	161
事実確認	161
うち、虐待認定数	102

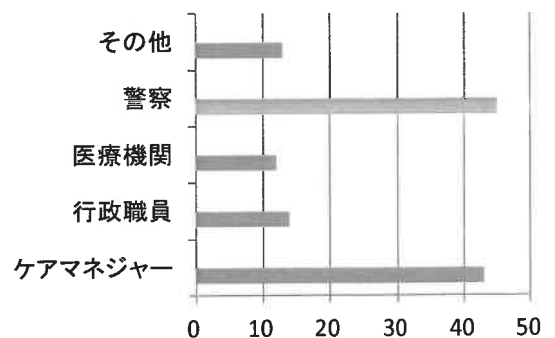
【通報(届出)者】

相談者	件数	比率
本人	14	8.2%
家族・親族	15	8.8%
虐待者	9	5.3%
一般市民等	6	3.5%
職務上知り得た者	127	74.3%
ケアマネジャー	43	25.1%
行政職員	14	8.2%
医療機関	12	7.0%
警察	45	26.3%
その他	13	7.6%
計(※重複あり)	171	100.0%

通報(届出)者



職務上知り得た者内訳

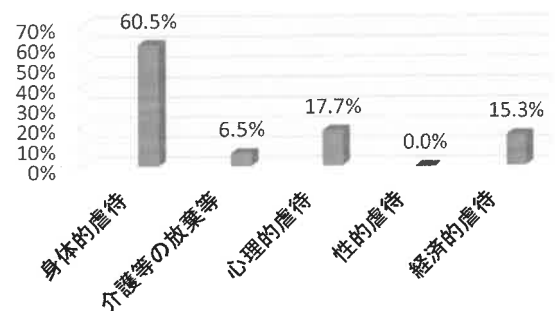


②虐待有の内訳

【虐待種別】(※虐待有78件の内訳)

相談者	件数	比率
身体的虐待	75	60.5%
介護等の放棄等	8	6.5%
心理的虐待	22	17.7%
性的虐待	0	0.0%
経済的虐待	19	15.3%
計(※重複あり)	124	100.0%

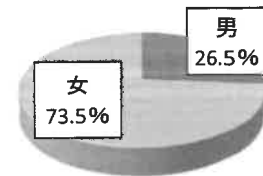
虐待種別 (重複あり)



【被虐待者性別】

性別	件数	比率
男	27	26.5%
女	75	73.5%
計	102	100.0%

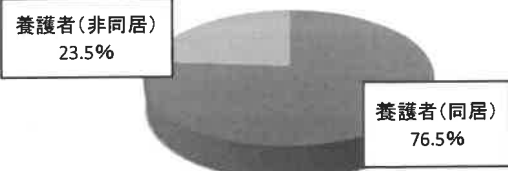
被虐待者性別



【養護者の属性】

属性	件数	比率
養護者(同居)	78	76.5%
養護者(非同居)	24	23.5%
計	102	100.0%

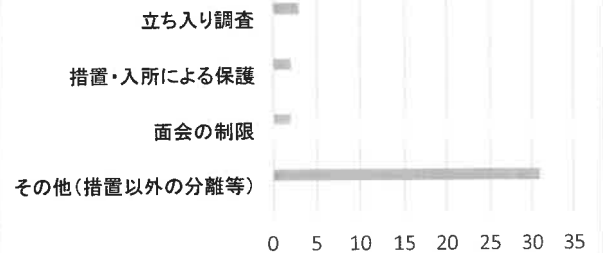
養護者の属性



【分離した対応状況】

対応状況	件数
立ち入り調査	3
措置・入所による保護	2
面会の制限	2
その他(措置以外の分離等)	31

分離した対応状況



【認知症の有無】

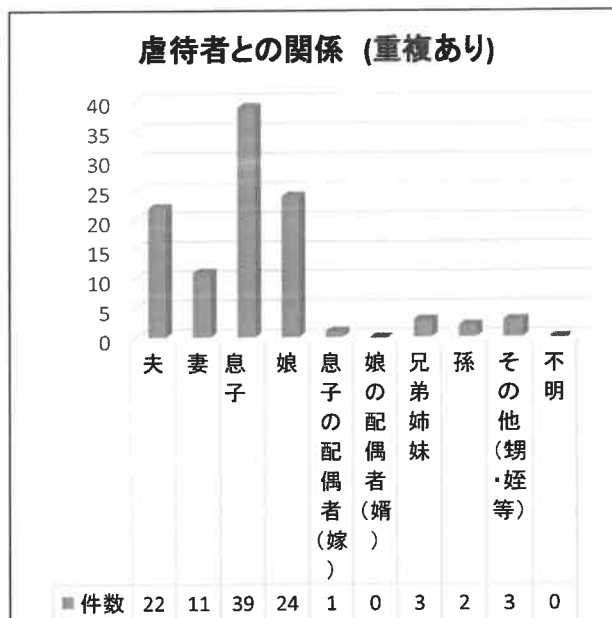
認知症	件数			比率
	R3	R4	R5	R5
あり(疑い含む)	60	42	67	65.7%
なし	26	35	33	32.4%
不明	0	1	2	2.0%
計	86	78	102	100.0%

認知症の有無(R5年度)



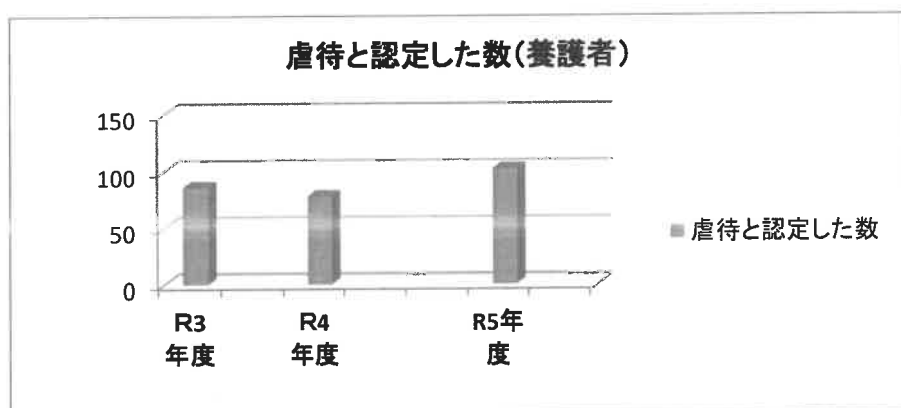
【虐待者との関係】(※虐待有102件の内訳)

虐待者との関係	件数	比率
夫	22	21.0%
妻	11	10.5%
息子	39	37.1%
娘	24	22.9%
息子の配偶者(嫁)	1	1.0%
娘の配偶者(婿)	0	0.0%
兄弟姉妹	3	2.9%
孫	2	1.9%
その他(甥・姪等)	3	2.9%
不明	0	0.0%
計(※重複あり)	105	100.0%



2. 虐待通報件数及び認定数の経年推移

種類		R3年度	R4年度	R5年度
養護者	通報(届出)件数	162	139	161
	虐待と認定した数	86	78	102
施設	通報(届出)件数	11	12	17
	虐待と認定した数	5	6	3



3. 成年後見制度市長申立件数

市長申立件数	R3年度	R4年度	R5年度
	9	7	6

令和5年度

虐待の発生に影響を与えたと思われる要因

	1 位	2 位	3 位
身体的虐待	高齢者本人の 認知症による 言動の混乱	介護疲れ ストレス	精神疾患、もしくは 精神疾患疑い (養護者)
心理的虐待	精神疾患、もしくは 精神疾患疑い (養護者)	高齢者本人の性格等	介護疲れ ストレス 人格や性格 (養護者)
介護放棄	サービス利用への抵抗感 高齢者本人の認知症による言動の混乱 高齢者本人の重介護 (身体機能、医療依存等)		
経済的虐待	高齢者本人の認知症による言動の混乱 精神疾患、もしくは精神疾患疑い (養護者)		無職 (失業を含む) (養護者)

令和 5 年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書

令和 6 年度八尾市認知症地域支援推進員設置事業計画書

令和 5 年度八尾市認知症初期集中支援事業実施報告書

令和 6 年度八尾市認知症初期集中支援事業計画書

チームオレンジ活動について

令和5年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書

1. 地域におけるネットワーク体制の支援

実績	評価と今後の課題
・ 関係機関に対してPR 153回 (事業所・集会所等訪問、チームオレンジ活動など) ・ 地域ケア会議への参加 15回/2人 * 合同定例会にて活動報告 ・ “チームオレンジ～つながり～” (オレンジパトロールに関して) ・ “あいさつからはじまる人とのつながり～認知症になっても地域でともにいきる” (おれんじ教室に関して) * アルツハイマー月間イベント (9月) 開催 ・ オレンジパトロール (清掃活動) ・ 認知症啓発上映会 “次世代へのバトン・AI を活用した認知症介護の可能性” ・ 八尾市立図書館 認知症関連展示 ・ おれんじフラワー活動 * 認知症啓発イベント 八尾市合同オレンジカフェ “間違ってもいいランチショー” 開催 “間違ってもいいティータイム” 開催	・ 関係機関へのPR に関してはオレンジティッシュや認知症ケアパスを個別訪問や行政機関、包括などで配架して啓発を行なうが限定的である。 ・ 地域ケア会議へ出席し、オレンジパトロール、おれんじルームなどの活動報告を行う機会を持つことで認知症本人の社会参加支援、認知症介護者の思いをある程度伝えることができた。今後も定期的に活動報告を行いながら多機関、分野の理解を得れるようにする ・ アルツハイマー月間では、認知症本人がイベントごとに役割をもって参加する機会をつくることでできている。 ・ 啓発上映会は、前回出演した認知症本人、家族が再度日常生活の様子動画を作成し、前回の動画の課題を修正してわかりやすい内容になった。上映終了後は介護者よりの実際の話もしていただく機会をもち参加者と思いを共感することができた。今後も、認知症本人、家族の思いを伝える機会を検討していく。 ・ 今年度は初めて多くの方が集う図書館で認知症に関連した啓発ができた。継続してできていければ幅広い啓発機会になってくる。 ・ 合同オレンジカフェでは、認知症サポート医の参加や障がい施設、地域のボランティアグループなど開催毎に協力者が増えてきている。参加者も増えてきているので今後も定期的に開催を検討する。

2. 地域における認知症高齢者やその家族を支援する相談支援や体制の構築

実績	評価と今後の課題
・ 相談件数 160件(延べ件数) ・ 実人数 74人 【内訳】 家族(29)件、関係機関(45)件 ・ 若年性認知症の相談件数 23件 ・ 相談から医療機関と連携 8件 ・ 地域包括支援センターと連携 44件 ・ 認知症サポーター養成講座 24回 (キッズサポーター、地域展開型、常設型など) ・ 認知症高齢者声掛け体験 2回 ・ 認知症オレンジパートナー養成研修1クール(2時間×2日間) ・ オレンジパートナーのつどい 2回 ・ 認知症キャバンメイト・オレンジカフェ連絡会 各1回 ・ 認知症カフェワークショップ 2回 ・ 認知症カフェ講座 1回 ・ 認知機能集団検査 “ファイブ・コグ” 1回 ・ 包括介護予防・家族介護教室 27回 ・ 地域、団体への認知症(予防)教室・講座 9回 (薬剤師会・あさおき会・刑部すみれの会・シルバ一人材センター・高砂地区・傾聴ボランティアえくぼ・歌体操ボランティアグループ・西山本地区) ・ 地域福祉デビュー講座(認知症理解) 2回 ・ 介護予防サポーター会議 2回 ・ オレンジパトロール 59回(5地域) ・ おれんじ教室 “脳りちゃん” 275回(8か所)	・ 認知症に関する相談に関して、最近は別居している両親の認知症のことで家族より相談が入ることがある。子供世代(40～60歳代)ではスマホ検索などでやおオレンジダイヤルに連絡しているので今後は周知方法についてもホームページやSNSを活用した方法も検討する。 ・ おれんじ教室はMCI、認知症初期の方、地域の高齢者の集い場所として全圏域で定期的開催できている。参加者同士の繋がりができることで次の参加者への声掛けもしてくれている。みんなの認知症予防教室を卒業した方が引き続いて参加してくれることも増えてきている。地域展開については山側での開催を今年度は検討していく。 ・ 常設型の認知症サポーター養成講座は、少人数での開催であるが毎回ほぼ定員に達しており市民キャバンメイトの活躍機会にもつながっている。参加者は、20～60歳代の参加者や介護者の参加者も増えている。今後は、民間企業や地域団体などへ開催の働きかけも重要。 ・ キッズサポーターは学校側、包括の協力にて、ほぼ予定通りの養成講座を開催できた。3年周期での開催になる為受講できない生徒への啓発は今後の検討になる。 ・ コロナ禍で出来なかった認知症高齢者声掛け体験を社協との連携で民生委員の方対象にファミリーロードで実施できた。地域での見守り体制構築に必要な体験になる為、今後は実施機会、場所を増やしていくように働きかける。 ・ 認知症サポーターの活動意欲のある方の “オレンジパートナー” に34名登録者ができ、活動機会も定期的

・おれんじルーム（認知症介護者交流会） 10回/2カ所	に確保で来ているが活動するパートナーは限定されている。活動機会の情報提供方法にも課題がある。 ・オレンジパトロールは認知症本人の社会参加のきっかけとして活動は継続できている。認知症本人の参加相談が少ないので医療、介護関係への周知、啓発機会を増やしていく。また活動内容として、地域貢献の清掃活動のボランティアを検討していく。 ・おれんじルーム（認知症介護者交流会）を継続して開催していくことができた。認知症介護という同じ悩みを伝えあうことで“気持ちが楽になる”“自分だけではない”思いを持てる場となっている。定期的な開催を継続していくことともに参加者の思いを形にしたものを作ることで参加できない家族への啓発を行っていく。
---	---

3. 認知症ケア及び医療との連携体制構築に対する支援

実績	評価と今後の課題
・ 認知症疾患医療センターと連携 12件 ・ 関係機関との会議に参加 103回 ・ オレンジカフェ（認知症カフェ）開催 26回 ・ 中河内地区認知症をともに考える会 2回 ・ 認知症対応力向上研修実施 3回 （居宅介護支援事業所、施設、在宅サービス職員向け）	・ 認知症疾患医療センターと定期的に認知症の地域課題や地域活動の情報共有を行うことで連携協力ができた。今後は若年性認知症への支援と社会資源の創出での連携も具体的に検討していく ・ オレンジカフェについては少しずつ再開力所は増えてきているが全体的にみると約半数は休止状態が継続し再開の見込みは厳しい様子。新たに地域カフェの形態で新規に開設する場所もでてきているので居場所として連携していけるように働きかける。 ・ 中河内地区の認知症施策関連の行政、専門職、認知症サポート医とともに意見交換することができた。今後も継続開催し、広域での支援体制構築を目指す。 ・ 認知症対応力向上研修については3部門でテーマ別に研修動画を視聴してもらった。今年度は3部門それぞれで視聴できていない研修動画の視聴を検討していく。

4. 事業の推進に関すること

実績	評価と今後の課題
・ 大阪府認知症地域支援推進員連絡会 1回 ・ オレンジコーディネーター研修 1回 ・ 大阪府高齢者虐待基礎研修 1回 ・ 若年性認知症に関する研修 1回 ・ 認知症地域支援推進員（現任者）、フォローアップ研修 3回 ・ 各種研修、勉強会、講座、認知症疾患医療センター受診同席(OJT)等へ参加 126回	・ 大阪府の認知症地域支援推進員連絡会では各市町村での認知症施策の活動などの情報共有、意見交換は行いがその場で終わっている。今後は、他市町村の推進員と連携し視野を広げていく。 ・ チームオレンジに関する知識を得る機会を持つことは出来ているが、試行錯誤の段階であるため活動内容やオレンジパートナーとの連携体制が不十分である。 ・ 若年性認知症への支援体制について対応ケースが少ないこともあり、地域への働きかけ方も知識不足の為今後、大阪府の若年性認知症コーディネーターとの連携を行っていきながら知識の習得を行う。 ・ 全国認知症地域支援推進員研修を通じて、多くの推進員との情報交換ができた。その中で、今後認知症本人の情報発信する機会を作れるように本人、家族、関係機関などへ働きかけていく。 ・ 認知症鑑別診断の同席をすることで、診断前後の本人、家族の課題を抽出、診断に至るプロセスを知ることとで相談業務や地域への啓発方法に役立っている。

令和6年度八尾市認知症地域支援推進員設置事業計画書

法人名	医療法人 清心会
認知症地域支援推進員名	山本 哲也（専任）、岩代 茜（兼務）

①地域におけるネットワーク体制構築の支援

令和5年度課題	令和6年度 計画
・会議、研修、意見交換などを通じて多機関との交流機会を持ち、その中でチームオレンジに関する活動報告等ができてはいるが報告から活動参加の連動にはなり得ていない。 ・地域住民の集いの場などに足を運ぶことが増えてきており、今後は運営者、参加者との関係構築が課題。 ・アルツハイマー月間に認知症本人、家族介護者、ボランティア、専門職、行政など多機関連携で新たな分野、場所での啓発ができた。今後は、民間企業関連への啓発も必要である。 ・認知症ケアパスについては、適宜内容の変更はできている。内容については認知症本人、家族の意見を取り入れる機会を作ることができていない。ま	・高齢者あんしんセンターを中心として連携を強化し、個別支援、地域支援体制を継続して構築していく。 ・地域ケア会議、専門職会議や地域の集まりへ参加や個別訪問等を通じて、地域課題を抽出し活動を提案していく。 ・チームオレンジ活動に関しては、高齢福祉以外の分野との協働できる機会を多く作っていく。 ・“やおオレンジダイヤル”を“認知症に関する気軽な相談窓口”として広く周知啓発する。 ・認知症本人、家族介護者より意見が聞けるように働きかけていく。 ・認知症ケアパスの普及啓発を教室、講座、イベント、訪問等で関係機関、地域住民に広く行っていく。

②地域における認知症高齢者やその家族を支援する相談支援体制の構築

令和5年度課題	令和6年度 計画
・認知症サポーター養成講座は、市民キャラバンメイトの参加機会が持てるような仕組みはできたが包括含めたキャラバンメイト全体の連携体制はできていない ・オレンジカフェは再開している箇所は少しずつ増えてきており、地域カフェとして新規に開催しているカフェも出てきている。オレンジカフェの転機を迎えている。 ・オレンジパートナーの活動機会は増えてきて協力者も増えてきているがチーム全体の連携体制が構築できていない。 ・“おれんじルーム”（認知症介護者交流会）を立ち上げることができたが周知、啓発が不十分であり参加者が限定的になってきている。 ・若年性認知症に関する相談件数も増えているが、社会資源不足が改善できていない。	・認知症サポーター養成講座を包括、市民キャラバンメイトが連携し、講座参加者の声を聞いて地域課題を抽出する ・認知症に関する相談窓口“オレンジダイヤル”を通じて、関係機関と認知症の早期発見、支援体制構築する。 ・やおオレンジカフェの新たな形として“移動式”として多くの地域で開催できる形を検討する。 ・認知症本人の“活躍できる機会”としてオレンジパトロールでの清掃ボランティアを新たに展開する。 ・オレンジパートナーの活動拠点をカフェと連携して創出し、キッズサポーター用のオレンジフラワーを作成する。 ・おれんじルーム（認知症介護者交流会）参加者の声を聞き書きボランティアと連携して冊子を作成する。 ・認知症本人、家族介護者、オレンジパートナーなどが思いを伝えあう“オレンジミーティング”を形にする。

③認知症ケア及び医療との連携体制構築に対する支援

令和5年度課題	令和6年度 計画
・認知症疾患医療センターと定期的な会議へ出席することで情報共有することや研修会、連絡会などの協力体制構築ができてきているので連携して活動を検討していく。 ・認知症初期集中支援チームの会議に出席しケース共有しているが、地域課題抽出し社会資源の創出などにつながっていない。 ・かかりつけ医との連携体制構築はできていない。	・認知症疾患医療センターと連携して若年性認知症本人、家族などが集うオレンジカフェ（“夜カフェ”）の開催を協力していく。 ・認知症初期集中支援チームとチームオレンジ活動が連動できるように定期的に情報共有していく ・地域の医療機関へ認知症の相談窓口や役割等の周知、啓発を行っていく。

④事業の推進に関すること

令和5年度課題	令和6年度 計画
・行政担当者と連携し、八尾市認知症施策に関する事業をスムーズに行うことができた。 ・認知症地域支援推進員の研修、連絡会へ参加し、活動の情報共有、交換ができたが交流機会がない。 ・中河内地区認知症施策担当者“認知症をともに考える会”を開催継続できている。 ・専門職向けに認知症対応力向上研修を行った。 ・認知症本人、家族が主体となった認知症啓発講演会をおこなった。	・行政担当者と活動や取り組みの方向性や視点を共有できるように常に話し合いができるようにしていく。 ・広域での認知症施策関連の情報共有、交換の機会を定期的に作っていくことで支援の幅を広げていく。中河内地区で共有できる社会資源の仕組みを検討する。 ・認知症対応力向上する機会の確保、専門分野ごとの課題に応じた内容を検討していく。 ・認知症本人、家族が思いを発信できる機会をつくる。

令和5年度八尾市認知症初期集中支援推進事業

実施報告書

業務内容	件数等
相談件数	24 件
訪問件数	27 件（実人数） 122 件（延人数）
モニタリング件数	15 件
チーム員会議の開催回数	39 件

	令和5年度の評価・課題
広報・普及啓発活動	・認知症疾患医療センター地域連絡会議の場で、家族支援をテーマに初期集中支援で関わった事例報告を行い、活動の取り組み等について情報提供を行った。市内の地域包括支援センター（以下：地域包括）に関しては初期集中支援の取り組みについて一定の認識を得ることができていると思われるが、他の機関に関しては十分な啓発ができておらず、今後もこのような場を活用し啓発を行いたい。
アセスメント	・公認心理師がチーム員に加わったことで、受診に至る前に専門的な認知機能の評価ができるようになった。面談時にも家族へ専門的な視点から話をすることができ、認知症に対する理解を深める一助となっている。 ・令和5年度も、医療受診の拒否や身体管理の問題から身体状況が悪化し、他界されたケースがあった。身体疾患の管理が不十分であったり、医療受診をしていないためどのような疾患が隠れているかわからない対象者に対しては看護師とともに訪問し、できる範囲ではあるが、全身状態の確認ができるよう心掛ける必要がある。
適切な支援	・初期集中支援においては本人へのアプローチのみならず、家族に対する支援も重要なポイントであり、これまでも家族支援を意識した関わりを行ってきた。令和5年度は特に必要なケースには対象者本人への訪問と並行して家族のみとの面談の実施を行った。家族のこれまでの歴史や関係性にも配慮しながら対応方法等へのアドバイスをを行うことで少しずつ本人に対する関わりに変化が起きた家族もあった。その反面、支援自体に抵抗感を示す家族もあり、結果的に医療受診等の支援ができずに終了となったケースもあり、地域包括側での長期的な見守りが必要となった。
支援の終了	・対象者が独居生活をしており、それなりに日常生活を送ることができているケースに関しては、関係構築や訪問はできても医療受診や介護サービス導入に至らない場合がある。他市のチームも同様の課題を抱えており、定期的な訪問を続けながら生活状況の変化を待つ必要がある点で、支援終了までに時間がかかることが多い。
モニタリング	・支援終了後のモニタリングは家族やつなぎ先の支援機関への電話連絡を中心としている。 ・一部、精神科病院へ通院されているケースについては受診時に家族への状況確認を行うなどした。
ネットワークの構築	・令和5年度は認知症疾患医療センターで把握したケースの中で、特に介護サービスにつながりにくく、経過観察が必要なケースに対し、試験的に認知症疾患医療センターから依頼をうけ訪問支援を行った。継続訪問が必要であり支援終了には至っていないケースもあるが、今後も診断後支援として必要なケースには同様の支援を検討したい。 ・認知症はあっても介護サービスにつながりにくいケースについては終了の糸口を見つけることが困難になっている。既存のサービスに当てはまらないケースについては個別性に応じた支援の枠組みを構築できるよう、認知症地域支援推進員と連携を図りたい。

令和6年度八尾市認知症初期集中支援推進事業

計画書

チーム名称		八尾市認知症初期集中支援チーム			
チーム設置場所		ヤオシ テンノウジヤ (住所) 八尾市天王寺屋6-59			
法人名		医療法人清心会			
従事者の体制		管理者	氏名(職種等)		専任・兼務
チーム員	1	○	瀧尻 真実(精神保健福祉士)		専任・兼務
	2		小林 雅美(精神保健福祉士)		専任・兼務
	3		新堂 真理子(看護師)		専任・兼務
	4		安田 智江(看護師)		専任・兼務
	5		出島 聖子(看護師)		専任・兼務
	6		宮崎 千鶴子(看護師)		専任・兼務
	7		花輪 祐司(公認心理師)		専任・兼務
	8		岩代 茜(社会福祉士)		専任・兼務
	9		()		専任・兼務
	10		()		専任・兼務
チーム員 医師		認知症 サポート医	氏名	勤務医院 病院名称	専門医療 分野
	1	○	工藤 香	八尾こころのホスピタル	精神科
	2				

	令和5年度 課題	令和6年度 計画
広報・普及 啓発活動	・地域ケアケース会議や虐待レビュー会議など市内の会議への参加が限定的であった。	・市内で開催している認知症カフェへの参加や、地域ケアケース会議、虐待レビュー会議については、より意識して参加できるよう努める。
アセスメント	・公認心理師が訪問することでより専門的なアセスメントが可能となったが、看護師の訪問が減ったことで、身体疾患に対する全身状態の確認など不十分なことがあった。	・地域包括支援センター（以下：地域包括）からの報告の際に身体状況の確認が必要と思われるケースについてはより柔軟に看護師の訪問ができるよう調整する。 ・チーム員のみ（精神保健福祉士、看護師、公認心理師）で行うチーム員ミーティングを定期的に行い、支援方針のすり合わせを行う。
適切な支援	・家族支援は重要であるが、訪問自体に抵抗感を示す家族がいたり、あるいは家族の意図のなかでしか動くことができない場合もあり、スムーズな支援に結びつかないことがある。 ・明らかに認知症とは異なる問題で支援が必要となっているケースに対し、本人が地域包括からの訪問を拒否したため、訪問できる対象がチーム員のみとなっている。	・依頼元の地域包括と協力しながら訪問の必要性について丁寧に家族に説明をする場を作る。 ・今年度も継続して看護師や公認心理師の専門性を活用しながら家族に対する心理教育を実施する ・身体状況に不安のあるケースについては行政も含めた関係機関と常に連携を図り、対応の方針について検討、共有できるよう心掛ける。 ・チーム員しか訪問できなくなっているケースについては、保健所職員や行政職員と役割分担をしながら、地域包括も含め情報共有を行い、見守り訪問を継続する。
支援の終了	・定期的な訪問の継続はできても、医療受診や介護サービスの導入など、次の段階に進まないケースがあり、終了に至らない。	・支援が長引くことも想定し、地域包括と協力しながら見守り訪問を続ける。そのうえで必要なタイミングで積極的な介入が図れるよう、生活状況や本人の状態の変化の観察を行う。
モニタリング	・医療受診や介護サービスに結びつかぬまま、いったん経過観察として終了し、地域包括に引き継いだケースがある。	・地域包括が本人の状態変化を把握した際には速やかに再介入ができるよう、日ごろから地域包括との情報共有を心掛ける。
ネットワークの構築	・認知症の診断はされても既存のサービスには当てはまらず、継続的な支援につながらないケースがある。 ・認知症疾患医療センターの受診者の中には、診断後支援が必要であるものの、既存のサービスにつながらないケースや、専門的な関わりの中で必要な支援への移行を検討すべきケースがある。	・本人の個別性に応じ、どのような支援であれば継続的な利用が可能かアセスメントを行ったうえで、資源の開発について認知症地域支援推進員と連携を図る。 ・昨年度より試験的に行っている認知症疾患医療センターからの相談を今年度も継続し、必要なケースが把握されれば、支援が必要かどうか行政へ相談の上、介入について検討する。

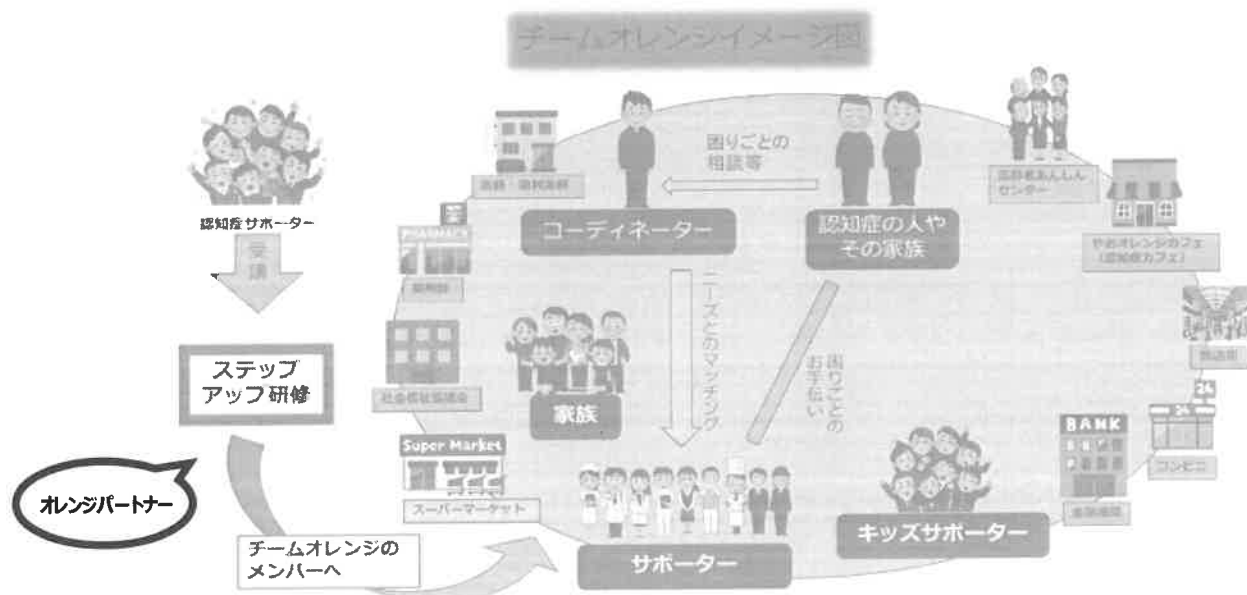
チームオレンジ活動について

チームオレンジとは、認知症の本人やその家族を早期の段階から地域で支えるため、オレンジパートナー等が認知症の本人やその家族への支援を行う仕組みのことです。

チームオレンジ活動報告（令和5年度 実績）

	実施時期	内 容	参加者
1	令和5年9月 随時開催	オレンジパトロール ①街歩き ②清掃活動	・本人、家族 ・民生委員 ・福祉生活相談支援員 ・オレンジパートナー ・認知症キャラバンメイト ・ケアマネジャー ・高齢者あんしんセンター
2	令和5年9月	認知症啓発講演会上映会 「次世代へのバトン～AI を活用した認知症介護の 可能性～」	・本人、家族 ・福祉生活相談支援員 ・オレンジパートナー ・認知症キャラバンメイト ・ケアマネジャー ・高齢者あんしんセンター
3	随時開催	おれんじ教室“脳りちゃん”（脳トレ教室）	・本人、家族 ・オレンジパートナー ・高齢者あんしんセンター
4	随時開催	おれんじルーム （認知症介護者交流会）	・家族 ・オレンジパートナー ・ケアマネジャー ・高齢者あんしんセンター
5	①令和5年9月 ②令和6年3月	認知症カフェイベント ①「まちがってもいいラン チショー」 ②「まちがってもいいティ ータイム」	・本人、家族 ・オレンジパートナー ・認知症カフェスタッフ ・高齢者あんしんセンター

※全ての活動は、認知症地域支援推進員が中心となって実施しています。



＜出典：厚生労働省作成資料を元に一部改編＞

令和5年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書
令和6年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施計画書

令和5年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書(社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会)

1. 地域資源の把握

実績	評価と今後の課題
(1)「やお地域資源 MAP」の更新 ・地域活動編(中学校区別) ・媒体:インターネット(随時更新)紙(年1回更新) ・新規申請件数:2件 (2) 地域活動等の把握:計87回 (3)地域活動(者)の相談対応:93件 (4)「ガイドブック」の作成 ・掲載機関への取材:1件 ・シニアむけオリエンテーション等で配付(年2回更新) ----- 高齢者を対象とした行事や講座、ボランティア活動など八尾市内で参加できる情報を収集し、ガイドブック(活動一覧表)を作成した。	(1)「やお地域資源 MAP」は無料サイト使用のため、サイト管理者の都合による利用停止の可能性はある。Web で地域資源マップの閲覧が難しい方に向けての紙媒体の編集も続けていくが、令和4年度から作成しているガイドブックとの併用に向け記載内容を検討していく。 (2)徐々に地域活動が再開したり、新しい活動メニューで開催したりする地区が増え、訪問の回数も増加した。今後も継続して活動を実施できるよう支援を続けていく。 (3)コロナ後再開に向けての相談。地域の課題相談。 (4)八尾市内で高齢者が楽しめる施設や事業などの取材をし、ガイドブックを更新し、八尾市内の活動紹介をする「シニア向け地域福祉オリエンテーション」の参加者等に配付した。これからも内容更新に努める。

2. 地域資源の開発

実績	評価と今後の課題
(1) 高齢者ふれあいサロンの開設・運営支援 ・相談等対応:5回 ・聞き取り調査:【対象】登録5団体【内容】活動の現状把握 ・新規サロンの相談:1回 (2)高齢者向けアンケート ・山本図書館:61件(聞き取り) ・八尾図書館:53件(設置)	(1) 既存のサロンに電話や訪問での聞き取りを行った。再開を検討しているサロンが数件あった。各サロンの活動環境、開催方法などを把握し、支援を続ける。新規サロンに訪問し、活動が円滑に進む様に行った。 (2) このアンケート結果を元に、地域活動にたずさわっていない方や、興味がない方へのアプローチ方法を図る。

3. 関係者によるネットワークの構築

実績	評価と今後の課題
(1) 第一層協議体:計2回 ・意見交換会:計0回 ・高齢介護課(担当)との打ち合わせ:計9回 ・協議会事前打ち合わせ(座長):計2回 (2)活動再開について話し合う場:計5回 (3)関係機関の会議出席 ・高齢者あんしんセンター関連:計10回 ・地域ケアケース会議:計8回 ・その他の関係機関会議:計2回 (4) SC の取り組み等説明:計3回 (5) SC 研修会・会議への参加:計5回	(1) 協議体委員相互の地域課題や連携強化を目的に担い手に関するグループワークを実施した。地域で意見を活用する。 (2) 中々再開できない、再開の課題の話し合いに参加。 (3) 管理者会議や地域ケアケース会議に参加する。 (5) 大阪府下の研修に参加し、これまでよりも幅広い情報を得ることができた。

4. 生活支援や介護予防の担い手の養成

実績	評価と今後の課題
(1) 何か活動したいと考えている方向けの講座の実施 ・シニア向け地域福祉オリエンテーション講座 (2回実施：参加者42名) ・シニア向け地域福祉デビュー講座 (2クール実施：参加者29名) ・ガイドブックツアー (2回実施：参加者10名) ・シニア向け地域福祉リーダー養成講座 (1回実施：参加者8名) ・介護予防サポーター養成講座 (1回開催：参加者28名)	・令和6年春に向けて実施予定の次回オリエンテーションに向けてガイドブックの実施を図る。 ・ボランティアセンターと連携し、ガイドブックツアーを充実させる。

※会議など出席回数は、すべて複数人参加による重複を除いてカウント。

※SC:生活支援コーディネーター

令和6年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施計画書（社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会）

長期目標	高齢者が、住み慣れた地域で安心して支え合って暮らし続けるための、地域の中の身近な助け合いの機会を増やしていくとともに、福祉分野に限らず専門職が地域活動と接点が増えるような場（協議体）の設定に取り組む。
短期目標	各日常生活圏域に1か所の協議体をモデル設置する。 また市域全体の高齢者を支える活動に関する情報を集め、関心のある市民が手軽に知る機会を作っていく。

1. 地域資源の把握

課題	計画・目標
・市内で高齢者が楽しめる施設や事業などの取材をし、ガイドブックの作成を行ったが、八尾市内の活動紹介をする「シニア向け地域福祉オリエンテーション」の参加者のみへの配付となった。 ・コロナで中止していた地域活動が、いつ再開するかめどが立たず、「やお地域資源 MAP」の掲載内容を年1回しか更新できていない。	・ガイドブックは、必要な方が入手できるような配付方法の検討や高齢者の生きがいつくりのきっかけとなるよう掲載内容の充実を行う。また、活動を紹介する上で、見るだけでイメージしやすい動画を多く取り入れていく。 ・地域活動が再開し始めたので、「やお地域資源 MAP」の掲載内容について年2回修正し活動を把握した上で、他圏域に紹介するツールとしても引き続き活用する。

2. 地域資源の開発

課題	計画・目標
・高齢者あんしんセンターや CoW と連携し、とくし丸の対象地区内のニーズ把握やマッチング支援を行ったがマッチングに至らなかった事案もある。 ・既存のサロンに電話や訪問での聞き取りを行った。コロナの状況に合わせた工夫をしながら再開をしているサロン1か所以外でも様子を見ながら動き出したサロンもある一方、開催しているところはまだ少ない。 ・感染症対策の一環でマスクを外す食事会以外のサロンとして体操の動画などを活用したサロンを地域や CoW と協働して行った。数地区でサロンが再開したものの、全地区再開には至らなかった。	・とくし丸のルートや時間帯、JA の移動販売の場所と時間帯を分かりやすく提供し、買い物支援の必要な方を他機関と連携し、共有して行く。また、とくし丸以外のJAが行っている移動販売、その他の朝市など SC が収集した買い物支援に関する情報を関係機関と共有をし、買い物支援が必要な方に周知をする必要がある。 ・コロナ対策しながら活動している一カ所のサロン以外でも少しずつ再開に向けて動き出したサロンもあり、再開に向け、各サロンの活動状況、開催方法などを共有する機会の創出や社協の持つネットワークや把握した社会資源を活かし、支援を続ける。 ・活動再開に向けて引き続き支援を行う。また、他機関と連携をしながら動画のコンテンツの充実を図る。

3. 関係者によるネットワークの構築

課題	計画・目標
・「おすすめの講座」や「ガイドブックツアー」をテーマに第1層協議体でグループワークを実施。各委員（団体）が実施している活動を共有することで、委員同士の連携を深めることができた。 ・昨年度に引き続き第2層協議体設置についての働きかけが進んでおらず、そのための事前説明会も含めて、地域の中で、話し合うために集まることを不要不急ととらえられている。	・引き続き、委員の主体的性を引き出しつつ協議体が一丸となって取り組めるよう企画をしていく。また、委員数人が出席している意見交換会も実施し連携を深めていく。 ・第2層協議体設置としてコロナで中止した地区へ再開の話を持ち掛け、地域から実施の意向が確認できたので、事前説明会から再開していく。

4. 生活支援や介護予防の担い手の養成

課題	計画・目標
・地域活動への関心を促すために、シニア向けオリエンテーション参加者に他講座を紹介して講座に連動性を持たせ、参加者が計画的に参加できるように工夫を行ったが、終了後に地域活動など次の行動に繋げることができなかった人もいた。 ・講座に占める定年を迎えたシニア世代の参加者数が少なく、開催場所、時間、内容などのシニア世代のニーズの把握が必要である。	・後日、参加者へ講座のアンケート集計や介護予防サポーター養成講座の案内などを郵送することで、終了後も SC と連絡を取りやすくして支援を継続する。 ・講座内でグループワークを実施することにより受講者の主体的な参加や受講者同士の交流の機会に繋げる。 ・講座や地域活動への興味や普段のニーズなどをアンケート調査で把握し、改善策を考案する。